

— 経営理念 —

ともに挑み ともに繋ぐ

常にお客様目線で上質な価値を創出する

— 行動指針 —

私たちは、全ての仲間と手を取り合い、
創出する喜びを分かち合います。

私たちは、失敗を恐れず、
常にチャレンジャーであり続けます。

私たちは、お客様と誠実に向き合い、
信頼される存在を目指します。

私たちは、こだわりと思いやりをもって、
心地良さの実現を追求します。

私たちは、法とその精神を守り、
安心・安全なものづくりを約束します。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月に開催

基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 期末配当金 3月31日
 中間配当金 9月30日

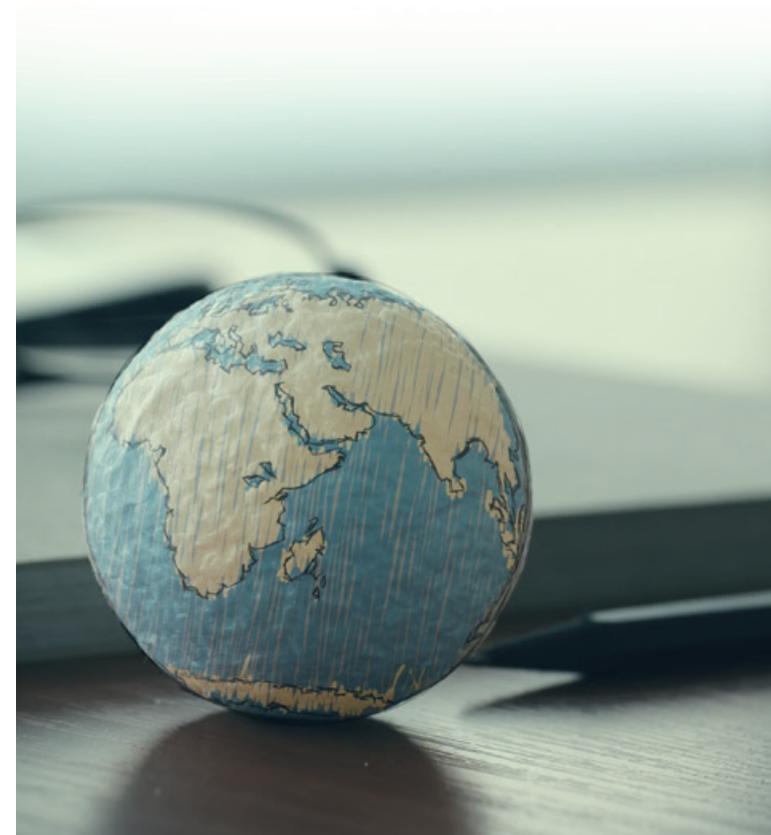
公告方法 電子公告
 公告掲載URL <http://www.fkkasei.co.jp>
 ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告
 できない場合は、日本経済新聞

単元株式数 100株

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 0120-782-031 (フリーダイヤル)



Interim Business Report

第110期 中間報告書

2020年4月1日～2020年9月30日



Segment Review

(単位：百万円)

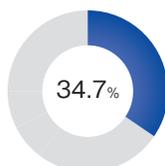
コーティング事業



主要分野

自動車内装分野、自動車外装分野、
自動車電装部品分野、
容器関連分野、携帯電話分野、
家電分野、ホビー分野、
農業資材分野

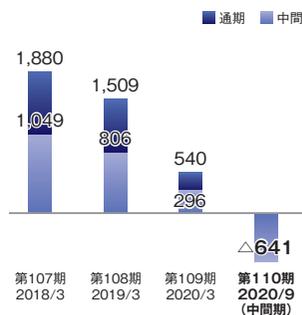
プラスチック用コーティング材（『レクラック』・『フジハード』など）を取扱うコーティング部門におきましては、ホビー用塗料の需要が引き続き堅調に推移いたしました。主力の自動車向け製品の需要が国内、海外ともに低調に推移いたしました。この結果、売上高は74億5百万円（前年同期比34.6%減）となり、営業損失は6億4千1百万円（前年同四半期は営業利益2億96百万円）となりました。



売上高構成比

売上高
74億5百万円
(前年同期比34.6%減)

営業損失
6億4千1百万円
(前年同期比-)



塗料事業



主要分野

外装建材分野、
内装建材分野、
エクステリア材分野、
住宅設備分野

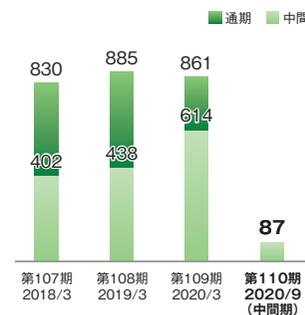
建築用塗料を取扱う塗料部門におきましては、新型コロナウイルス感染症や豪雨による工事の延期や中止の影響を受け、リフォーム向け塗料の需要が低調に推移いたしました。この結果、売上高は54億5千3百万円（同26.6%減）となり、営業利益は87百万円（同85.8%減）となりました。



売上高構成比

売上高
54億5千3百万円
(前年同期比26.6%減)

営業利益
8千7百万円
(前年同期比85.8%減)



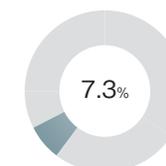
電子材料事業



主要分野

通信機器分野、
表示体分野、
家電分野、
車載用電子機器分野、
OA機器分野

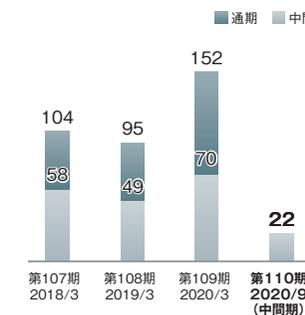
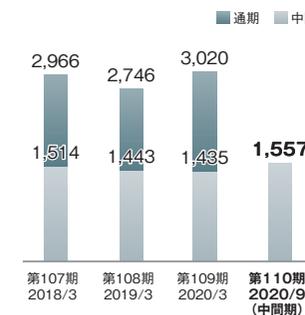
導電性ペースト材（『ドータイト』）などを取扱う電子材料部門におきましては、自動車向け製品の需要が欧州を中心に低調に推移いたしました。テレワークの推進によりパソコン向け製品の需要が好調に推移いたしました。この結果、売上高は15億5千7百万円（同8.5%増）となり、営業利益は22百万円（同68.4%減）となりました。



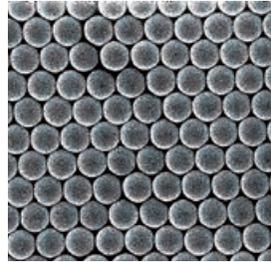
売上高構成比

売上高
15億5千7百万円
(前年同期比8.5%増)

営業利益
2千2百万円
(前年同期比68.4%減)



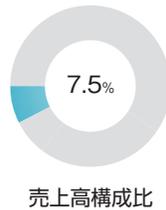
化成品事業



主要分野

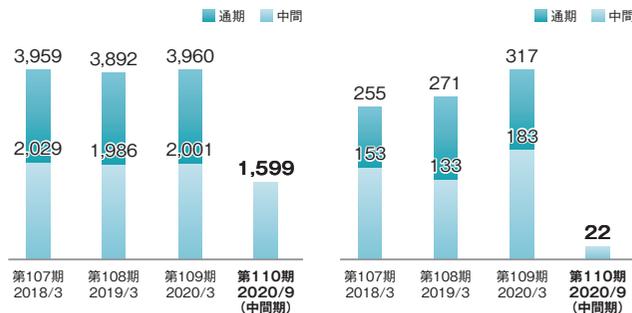
トナー用樹脂分野、
電荷制御剤分野、粘・接着剤分野、
ディスプレイデバイス分野、
メディカル材料分野、
電子部品関連分野

トナー用レジン、樹脂ベース（『アクリベース』）やメディカル材料などを取扱う化成品部門におきましては、テレワークの推進に伴う印刷物減少の影響により、トナー用レジンの需要が低調に推移いたしました。また、新型コロナウイルス感染症の影響によりメディカル材料分野の主力製品である、糖尿病診断薬の海外での需要が低調に推移いたしました。この結果、売上高は15億99百万円（同20.1%減）となり、営業利益は22百万円（同88.2%減）となりました。



売上高
15億9千9百万円
(前年同期比20.1%減)

営業利益
2千2百万円
(前年同期比88.2%減)



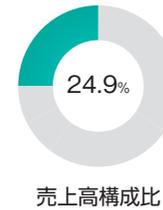
合成樹脂事業



主要分野

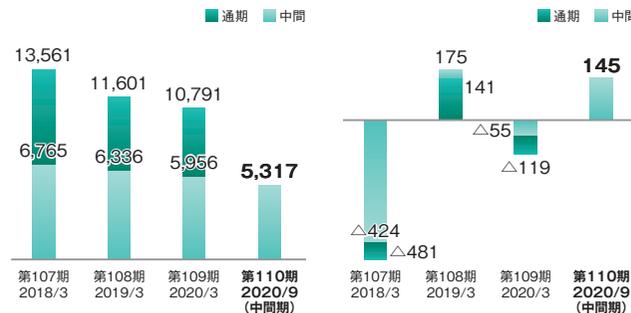
高機能光学材料分野、
工業用銘板分野、
産業資材分野

子会社藤光樹脂株式会社などが取扱うアクリル樹脂の原材料・加工品の販売におきましては、新型コロナウイルス感染症対策用のフェイスガードや飛沫防止用のアクリル板の需要が堅調に推移いたしました。この結果、売上高は53億1千7百万円（前年同期比10.7%減）となり、営業利益は1億4千5百万円（前年同期比-）となりました。



売上高
53億1千7百万円
(前年同期比10.7%減)

営業利益
1億4千5百万円
(前年同期比-)



会社概要 (2020年9月30日現在)

会社名 藤倉化成株式会社
本店所在地 東京都板橋区蓮根三丁目20番7号
本社事務所 東京都港区芝公園二丁目6番15号
設立 1938年9月22日
資本金 53億5千2百万円
従業員数 連結 1,257名
単体 440名
連結子会社数 国内4社 海外15社
ホームページ <http://www.fkkasei.co.jp>

株式の状況 (2020年9月30日現在)

発行可能株式総数 84,000,000株
発行済株式の総数 32,716,878株
株主数 3,383名

TOPIC

CSRレポートを発行いたします

化学を企業活動の根幹とする当社では2004年の「環境報告書」の発行から、途中、労働安全衛生や社会性の項目を加味しながら、「安全・環境報告書」の発行を2019年まで続けてきました。

この間、企業の社会的要求が増加を続ける中で、当社としても企業の活動をより広い範囲で情報開示することが必要と判断し、「CSRレポート」をスタートいたしました。

CSRは、企業の社会的責任から社会的要求の対応力へと変遷しています。本業を通じて社会課題に対応することは企業価値を高めることにつながるため、CSRは重要な経営ツールのひとつといえます。

当社は、このCSRの考え方を有効に活用し、ポジティブインパクトを高めることで社会から信頼され続ける企業を目指しています。

<http://www.fkkasei.co.jp/csr/report.html>

To Our Shareholders

株主の皆さまへ

株主の皆さまには格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
当社第110期中間期（2020年4月1日から2020年9月30日まで）の営業概況等につきご報告申し上げます。

2020年12月

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状態が続いています。緊急事態宣言の解除により経済活動が再開されるなかで、景況感は持ち直しに転じたものの、経済活動の停滞が長期化する懸念もあり、先行き不透明な状況となっております。

また、海外におきましても経済活動再開の動きが出始めておりますが、新型コロナウイルス感染症の収束の見通しは立っておらず、米中の通商摩擦や英国のEU離脱に伴う通商問題などもあり、引き続き予断を許さない状況が続くものと考えられます。

このような環境の下、当第2四半期連結累計期間の売上高は212億94百万円（前年同期比24.2%減）となり、営業損失は3億66百万円（前年同四半期は営業利益11億8百万円）、経常損失は1億41百万円（前年同四半期は経常利益12億60百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は3億8百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益8億52百万円）となりました。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **加藤 大輔**

Financial Highlights

連結財務ハイライト

